

3. 1ピキニデーに参加し決意新たに！

2月28日(火)～3月1日(水)静岡県焼津市で開催された3.1ピキニデーに香川民医連から川辺健之さん、組合員の田所篤子さん含む4名が現地参加しました。(オンライン参加24名)

1954年3月1日未明、アメリカが太平洋ピキニ環礁において行った広島型原爆の約1000倍の威力をもつ水爆実験で、マーシャル諸島の人びとや多くの日本漁船などが被災しました。

焼津のマグロはえ縄漁船「第五福龍丸」は、“死の灰”を浴び、23人の乗組員全員が急性放射能症にかかり、無線長の久保山愛吉さん(当時40歳)は「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」と言い残してその年9月に亡くなりました。

この3・1ピキニ事件は、日本国民に大きな衝撃をあたえ、広島・長崎をくりかえさせるなど、翌55年8月に第1回原水爆禁止世界大会が開催され、原水爆禁止日本協議会(日本原水協)がその年の9月に結成。現在の国民平和進行含む核兵器廃絶の運動の現在につながる大きな流れをつくりました。



【川辺さんの参加報告より】

- ・集会前には500名の参加者で献花墓参平和行進が行われ、700名の墓前祭が行われました。
- ・分科会では海外代表と非核平和のアジアをいかに築くか意見交換をし、戦争する国づくりを許さず禁止条約に参加する日本を作るための全国の戦いについて交流しました。
- ・集会では全国の草の根から立ち上がり行動をしようと報告があり、参加者全員で核兵器廃絶に向けて行動する決意を新たにしました。
- ・初めてピキニデーに参加し、核兵器の恐ろしさ、悲惨さは入職してから勉強する機会もありいろいろと見たり聞いたりしていましたが、改めて怒りや悲しみを感じました。核兵器を使ったことで生まれる悲惨な状況を自らの手で作り出さない、ということ核保有国や唯一の被爆国である日本には再度考えてほしい。平和行進を続け、ピキニ環礁で起こったことは永遠に語り継いでいかなければならないことだと思いました。



現地へ参加された、医療生協社保平和委員の田所さんはさっそく3月6日(月)のスタンディング行動に参加され、「核兵器禁止条約へ結実した世界の運動の流れが、ロシアのウクライナ侵攻を契機に軍事力対軍事力日本では大軍拡・大増税の大逆流が起きている。大きな岐路に立ち、今こそノーモア、ヒロシマ、ナガサキ、ヒバクシャ、フクシマの流れを大きくしようと語りました。